

# SPACC25 における中学生のポスター賞ご受賞について

福本 晃造  
琉球大学教育学部

## 1. 趣旨

今回 SPACC25 が開催された琉球大学では、日本の科学技術を牽引する人材の早期教育として、小中学生を対象として「ジュニアドクター育成塾事業」(通称:琉大ハカセ塾)、高校生を対象とした「グローバルサイエンスキャンパス (GSC) 事業」(通称:琉大カガク院)を、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) の支援を受けて実施しています。全国から選ばれた受講生(各 40 名)を対象に、月に 2 回程度の講義、演習・実習、グループ討議等を実施し、科学者として必要な基盤的能力の幅広い育成を行って参りました(第一段階教育プログラム)。さらに小中学生 1 割、高校生 4 割程度を選抜し、大学の研究室において本格的な研究活動に取り組んでいます。SPACC25 では、この中から 2 名の優秀な受講生による研究成果のポスター発表が行われました。研究者や大学院生等のポスター発表が行われた会場においても、遜色ない堂々としたご発表に対し、ポスター賞が授与されることとなりました。ポスター賞を受賞された中村青空さん(琉球大学教育学部附属中学校) および仲松日菜子さん(沖縄県立球陽中学校)の 2 名から、ご受賞のコメントをいただいておりますので、以下に掲載させていただきます。



## 2. ポスター賞受賞者の声



中村青空さん(琉球大学教育学部附属中学校)

これまで僕は、研究発表などをすべて日本語でやっていました。SPACC に参加することで実際の外国人に対して英語で発表することや英語で質問されることに対して自分も英語で答えるというような、初めての経験ができました。これまでの発表はすべて日本語での発表でした。しかし今回は、英語の発表を聞いたりするという経験もできました。今回、これまでの研究を発表することで相手に自分の考えを伝えることや、さらにその研究の課題点などを教えてもらうことで、自分の研究がさらに発展できる点もありました。またこのようなことがあれば、参加してみたいです。



仲松 日菜子さん(沖縄県立球陽中学校)

私は SPACC に参加することができて、とても良い経験ができました。化学の先生方が専門家の視点で研究をみて頂き、私の研究の誇れるところ、また改善した方がよいところを的確にアドバイスして下さい、今後の私の研究活動において大きな一歩となりました。一方で、自分の言いたいことが伝わらなかったり、先生方の専門用語についていけなかったりもし、自分の技術・知識不足を大きく実感しました。「もっと化学を深く学びたい」とあらためて感じたので科学を一から勉強します。次回このような機会があったら自分のグレードを一段上げてチャレンジしたいです。